京都市の文化財周辺市街地における特性分析に関する研究

国土交通省国土技術政策総合研究所　正会員　○伊藤　嘉奈子
立命館大学　フェロー会員　村橋　正武

1. はじめに

京都市には市街地の空間構造や活動状況において特色を持った市街地が多く存在する。特色ある市街地形成のためには市街地の実態や特性の把握が必要であるが、現在、市街地の実態把握が十分に行われているとは言い難い。

一方、京都市には文化財が国宝または重要文化財に指定されている建造物だけで 300 以上存在する。この文化財を中心に形成された文化財周辺市街地も、特色ある市街地として京都市に多数存在する。

以上より、本研究では京都市の文化財周辺市街地についてその実態を把握し特性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象地

研究対象地として清水寺とその周辺の六元学区（粟田・有済・弥栄・新道・清水・六原）を選定する。文化財である清水寺とその周辺市街地では相互に関連した活発な活動が営まれ、特色ある市街地が形成されている。この六元学区は、京都市市街地景観条例により定められた鴨東Ⅱ美観地区のエリアとほぼ等しい。

3. 文化財周辺市街地の特徴と分析概要

京都市の市街地の特徴や一般的な門前町の特徴[1]より、京都市の文化財周辺市街地について以下の特徴が指摘できる。

①広がりを持った市街地が形成されており、この市街地の中心は参詣道沿いである。
②参詣道沿いには多数の商業施設立地が見られる。
③商業施設として利用される京町家が多い。
④多くの住民が居住しており、文化財と関わりを持つ自治活動が存在する。

そこで、市街地の空間構造と活動状況の両側面から文化財周辺市街地の実態を把握する。具体的には文化財とその周辺市街地、及び空間構造と活動状況の関連から文化財周辺市街地の特性を把握する。

4. 文化財周辺市街地の空間構造

はじめに清水寺を含めた文化財の分布、町丁別の商業施設・住宅の立地割合、京町家・木造・非木造施設の立地割合、施設階数割合等を概観し、かつ清水寺からの距離的関係から文化財周辺市街地の範囲を設定した。研究対象地では清水寺以北に立地する複数の文化財が清水寺への参詣道形成に影響を与えているため、清水寺の周辺市街地は清水寺以北に分布している。また、祇園町南側・元吉町は茶屋町であり、祇園町北側を含めて歓楽街を形成している。そして、幹線道路沿いの町丁では非木造施設割合が高く、施設階数が周辺町丁より高いといった特徴が見られる。以上より、清水寺以北、祇園町周辺以南、幹線道路である東大路通沿い以東の範囲内において、清水寺を中心とした文化財周辺市街地が形成されていると考える。

次に、上記の町丁についてより詳細な空間構造の特徴を考察した。清水寺を含む清水一丁目、二丁目、三丁目、桝屋町、金園町、下河原町、南町では、他の地域と比較して商業施設割合が高く（図1：色が濃いほど商業施設割合が高い）住宅と混在しており、また京町家の割合が比較的高い。

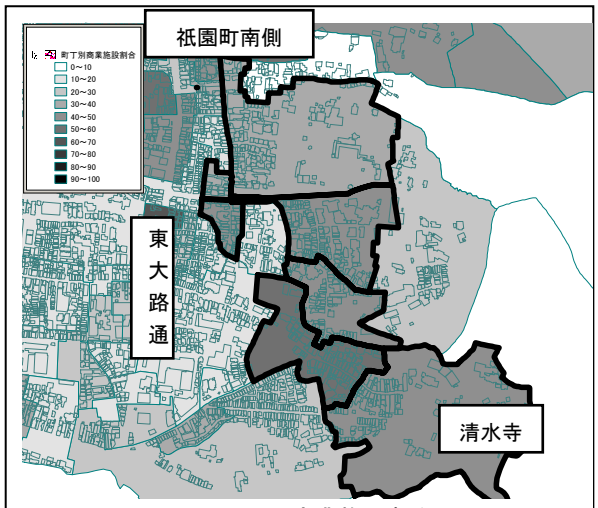

図1　町丁別商業施設割合
（破線：文化財周辺市街地、太線：中心部）

キーワード　文化財，文化財周辺市街地，空間構造，活動状況
連絡先　〒525-8577　滋賀県草津市野路東 1-1-1　立命館大学　ＴＥＬ077-566-1111

表1　文化財周辺市街地町丁別割合一覧（太枠内：中心部）

町丁	商業施設	住宅	京町家割合（商業施設）	共同住宅割合	非木造施設割合	4階建以上割合
清水一丁目	46.3	29.3	5.9	2.3	9.5	0.0
清水三丁目	48.8	43.9	30	0.0	7.3	2.4
清水二丁目	55.8	44.2	4.8	6.0	11.5	0.9
桝屋町	44.2	60.8	10.9	6.8	12.5	0.0
金園町	41.3	67.4	23.5	3.2	10.9	10.9
下河原町	37.6	39.6	37.3	3.4	10.1	2.7
南町	38.9	77.8	14.3	7.1	5.6	5.6
上弁天町	31.3	68.8	50	0.0	12.5	6.3
五条橋東六丁目	29.8	74.9	1.4	1.0	4.7	2.0
八坂上町	12.5	71.4	14.3	5.0	5.4	1.8
鷲尾町	8.3	47.9	80	8.7	10.4	2.1

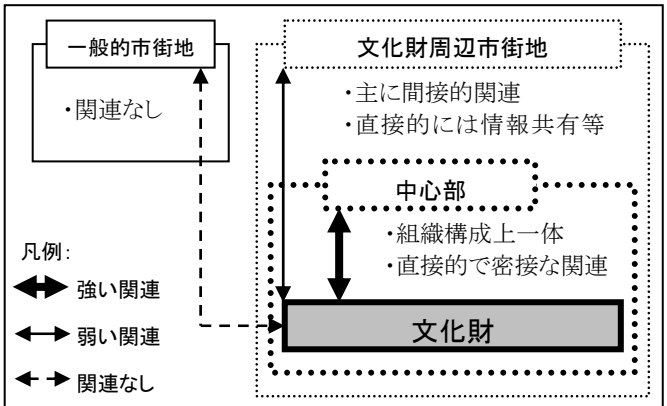

図3　文化財と市街地の関連図

清水寺からの距離や市街地としてのまとまりからもこの町丁が文化財周辺市街地でも特に中心部となると考える。

よって、文化財周辺市街地は商業施設と住宅の混在が見られ、商業施設として利用される京町家が比較的多く存在し、共同住宅・非木造施設・4 階以上施設の割合が比較的低いといった特徴を有しているといえる。清水寺から北西に広がる 11 町丁でこのような特徴が見られることから、これが清水寺を取り巻く文化財周辺市街地であると考える。

5. 文化財周辺市街地の活動状況

ヒアリング等を通して文化財や地域単位の組織による活動状況を把握した。清水寺との関連に着目し、一般的な市街地、文化財周辺市街地全体及び、文化財周辺市街地の中心部について、住民の活動状況を分析した。

はじめに一般的な市街地では文化財と接点はない。

文化財周辺市街地では、清水寺と年 1 回懇親会が開催されており、ここで文化財と住民の顔合わせ、情報共有や行事への協力依頼が行われる。また、文化財周辺市街地では商業活動が活発であり、自営業者が多いため、若年・壮年世代の自治活動への積極的な参加が見られる。また、文化財との関係から防災や観光面で対応すべき課題があり、このための活動が比較的活発である等、間接的に文化財と関連した活動も見られる。

更に文化財周辺市街地の中心部では、1～数町単位での活動組織が存在する。地域内の住民や自営業者あるいは居住していないが商業活動に従事する者が各々の目的（商店街の繁栄や地域づくり、文化財防災など）ごとに主体を組み合わせて組織を構成している。例えば、清水寺の防災を目的とした組織が清水一丁目・二丁目の自営業世帯を中心に構成されているが、この組織構成員には清水寺が含まれており、活動内容面でも清水寺と住民や商業活動従事者が共同で活動を行っている。また、清水一丁目・二丁目の商業活動従事者による商店街組織は、清水寺の行事に主体的に関わっている。桝屋町の住民や商業活動従事者によって構成されるまちづくり組織では、清水寺への依存から脱却しようとしている。このように中心部では、各々の活動内容や文化財との関わり方は違うものの、他の地域以上に文化財と密接な係わりを有した活動が行われていることが明らかになった。

6. 終わりに

空間構造から設定した文化財周辺市街地では、活動状況上も文化財と関連を有した活動が行われており、更に文化財周辺市街地には中心部が存在することがわかった。中心部は空間構造面で文化財周辺市街地としての特徴を顕著に有するが、活動状況面でも文化財とより密接な関連を有していることがわかった。

今後は、より詳細な指標を用いた空間構造の把握や、他の文化財周辺市街地を分析することで普遍的な文化財周辺市街地の特性が明示する。また、市街地の実態や特性を踏まえ、市街地の有する課題の抽出や特色ある市街地形成を目指した整備方策の検討を行う。

参考文献

1）藤本利治（1970 年）「門前町」古今書院
2）清水寺史編纂委員会（1997 年）「清水寺史　第二巻　通史（下）」音羽山　清水寺
3）六原学区自治連合会、清水学区自治連合会、清水寺門前会、清水一丁目町内会、清水寺警備団各種資料